まおゆう 魔王勇者

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

第二一巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉菫之丞・toi8

KCA264-5
角川書店

9784041200544

ISBN978-4-04-120054-4
C0979 ¥580E

定価：本体580円(税別)　発行：角川書店

1920979005808

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第二巻

まおゆう
魔王勇者

第二巻

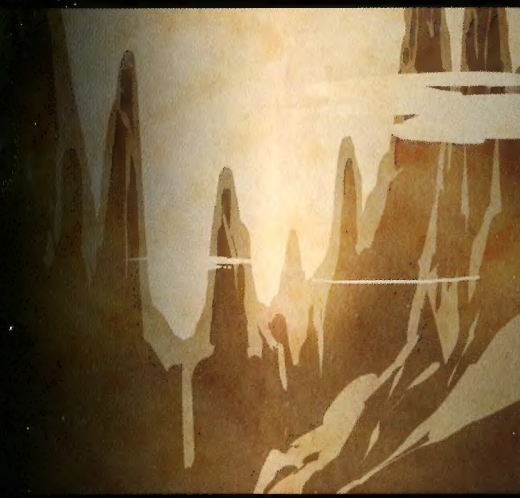
漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第五話 Archenemy and Hero 5th chapter 001
我は黒騎士!

第六話 Archenemy and Hero 6th chapter 049
二つの道の一つを選べと

第七話 Archenemy and Hero 7th chapter 093
私にはわからないことばかりだ

第八話 Archenemy and Hero 8th chapter 143
第二次極光島奪還上陸作戦を開始する!



漫画 原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雲之丞・toi8
おおゆう
Archenemy and Hero 魔王勇者
――「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
Archenemy and Hero 5th chapter 第五話
我は黒騎士！

うん
うまい
メイド長なみに
お茶を淹れられるように
なったんじゃないか？
いえ
そんな
まだまだです
まおゆう
魔王勇者
第五話

勇者さまが
おでかけになって
もう三か月ですね
うん…
どこでなにを
しているんだか…

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第二巻

漫画原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案

水玉螢之丞・toi8

コラムページ

竹之内大輔、花倉渚(レッカ社)

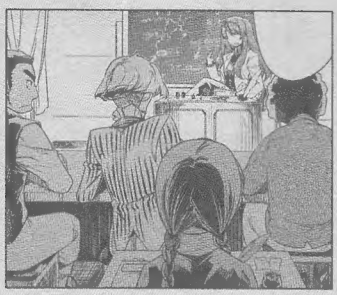
野村昌隆

「この我のものとなれ、勇者よ！」

人間と魔族との凄惨な戦いに終止符を打つべく、単身魔王城へと乗り込んだ「勇者」。しかし、ついに対峙した「魔王」が発した第一声は、勇者が予想だにしないものだった。とまどう勇者を相手に魔王は、この争いには双方にとって得難い効用があったこと、そして、どちらが勝利を得ても破滅へと続いていることなどを説く。彼女の言葉によって明らかになる真実に愕然とする勇者。そんな彼に魔王はさらに語りかける。彼女は、この戦争にどちらかの勝利ではない別の結末「まだ見ぬ丘の向こう」をもたらそうとしており、そのためには勇者と魔王の二人が力を合わせることが必要だという。初めて知った世界の真実、そして魔王の真摯な態度

と熱意に心を動かされた勇者は、ついに魔王の申し出を承諾する。

その後、二人は南部諸王国の一国・「冬の国」の辺境にある「冬越し村」に拠点を構えた。魔王の部下「メイド長」をはじめ、邸に逃げ込んできたところをメイドとして迎えた「農奴の姉妹」、人材育成のために集めた「三人の子弟」など、彼らの周りには運命に導かれるかのように集まる。



そんなある日、農業の改善のために協力を得るべく訪れた湖畔修道会で、勇者はかつての仲間である「女騎士」と再会する。彼女は「紅の学士」を名乗る魔王の言葉に感銘を受け助力を約束する一方、仲間のひとり「女魔法使い」が勇者を追って単身魔界へと旅立ったことを彼に伝える。それを聞いた勇者は、魔王からゆるんだ魔界の粛清を託されつつ、仲間を探しに魔界へと旅立つ。かたや魔王はさらなる計画進行のため、大陸の一大組織である「同盟」との接触をはかるのだった――。

まおゆう人物紹介

Lectures on Archenemy and Hero
Character Profile

魔王

魔族を統べる王。本当の意味で戦争を終わらせ、未だ見ぬ世界を求める。戦闘力は皆無だが、豊富な知識を誇り、人間界では「紅の学士」を名乗っている。駄肉がコンプレックス。

勇者

戦争を終わらせるべく、単身魔王城へと乗り込んだが、魔王に説得されて彼女に協力することを決める。実直な性格で、人並みはずれた戦闘力をもつ一方、歳相応の純情さも。

メイド長

魔王が幼いころから世話をしている。魔王の親戚で、「メイド道」を究めんと日々精進している。厳しいが、基本的には優しい人物。

女騎士

湖畔修道会に所属する騎士。かつて勇者と旅をしていた。現在は魔王の農業改革に力を貸している。「怪力皇女」などの異名をもつ。

メイド姉

農奴だったが、館に逃げ込んだことで魔王に救われる。メイドとして館の世話をしている一方、魔王の講義で勉学にも励んでいる。

メイド妹

姉と共にメイドとして働いている元農奴の少女。いつも明るく朗らかなムードメーカーで、村人からも愛されている。食いしん坊。

軍人子弟

魔王と勇者のもとで講義をうけている、下級騎士家からの子弟。豪快単純な性格で「ござる」口調が特徴。

貴族子弟

軍人子弟たちと同じく魔王たちの教育を受けている、氷の国の貴族の子息。典型的な貴族的思考の持ち主。

商人子弟

魔王の館で学ぶ3子弟のひとり。他の二人に比べ、魔王の超越した論理には理解を示す。剣技は苦手。

魔界
黒狼砦
ウオオーン
オォーン
ウロロローン
報告ッ
第五中隊も
壊滅ッ！
何だと!?
早すぎる…
敵は本当に
ひとりなのか!?
ハッ
戦っているのは
ひとり…かと
魔界覇軍の中でも
精強で知られる
この黒狼軍を
たったひとりで
ここまで…
来ましたッ
いったい
何者なのだ…

ゴォォ
黒騎士(くろきし)——!!

ゴオオオ

黒騎士
とやら！
我が黒狼軍を相手に
まずは見事ッ！
だが
ここまでだ！

この黒狼砦を
預かる
獣牙族が
魔狼将——

ヤッチャエ
黒騎士サマ！
おお！
大賢者
直伝っ！
二音集いて
唱和せよっ

光の封印槍!!!
何イイイ!!?

か…
体が動かぬ…
おのれ…ッ
お
これをくらって
しゃべれるとは
なかなかやるな
ギャーン
フ…
峰打ちだ
デコピン
ダヨネ?
よし
行くか
コッチダヨ!

！
何事です？
女王サマッ！
羽妖精？
どうして…
助ケテ
クレタンダヨ
そちらは
人間…
ですか？
ガチャ…
ああ
我は
黒騎士
魔王に仕える
人間だ

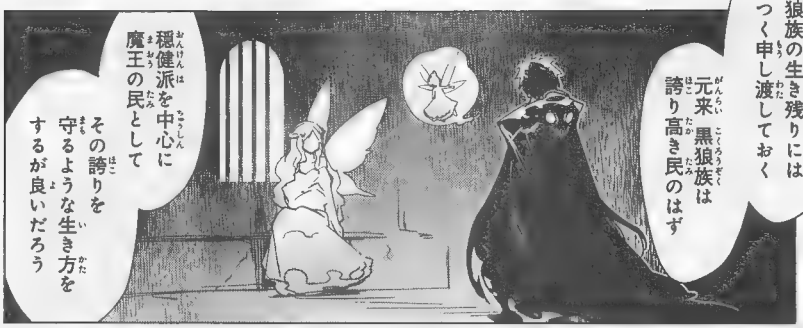
私は
妖精女王です
妖精女王
アタシハ
羽妖精！
羽妖精
知ってるよ
助けに来てくれたのは
ありがたいのですが…
ここは危険です
魔狼将軍が来る前に
早く逃げてください

さっきの
ヤツかな？
倒シテタネ
わふーん…
まさか!?
人間に
そのような
力が…
しかし
それだけでは
ないのです！
魔狼将軍の背後には
さらなる実力をもつ
魔界でも高位の戦士
黒狼王が…

それも倒した
先週
ギャワォォーン
二の黒狼王がー!?
ええっ!?
?…
二の黒狼王御祝せん
貴方はいったい…?

言っただろう
我が名は黒騎士!
カックイー!
魔王の剣にして絶対忠誠を誓う魔界の執行官!!

黒狼族は魔王の命令に背き人間をさらっては無益な殺生と玩弄を繰り返し…
魔族の都市や村までも略奪していた
よって
魔王の命により黒狼族に粛清を下した


黒狼族の生き残りには
きつく申し渡しておく
元来 黒狼族は
誇り高き民のはず
穏健派を中心に
魔王の民として
その誇りを
守るような生き方を
するが良いだろう

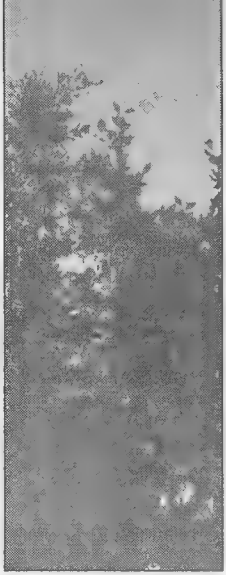
妖精族は黒狼族からの
迫害さえなければ
異存はありませぬ
遺恨は伝えぬと
誓約しましょう
…その寛容
魔王に伝えよう

女王サマー
人捜シー
?
ああ
そういえば
そうだった
あ…
魔王の命令により
我はひとりの人間を
捜しているのだ
黒狼族はそのついでだ

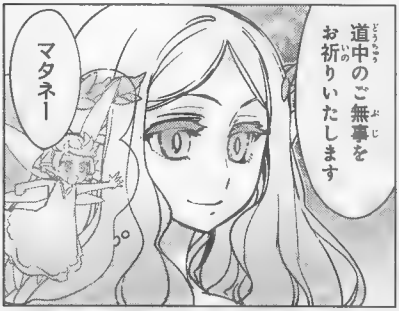
女王サマノトコロニ来テタ人間女ー
ああ あの術士ですか
素晴らしい魔法の素質を秘めていましたね
彼女は妖精族の魔法を学ぶと さらなる奥義を求めて旅に出ました
どこまで努力すれば気がすむんだ あの無表情小娘
今でも人間界最強のワセに…
どこに行ったかは…
それはわかりません
…そういえば

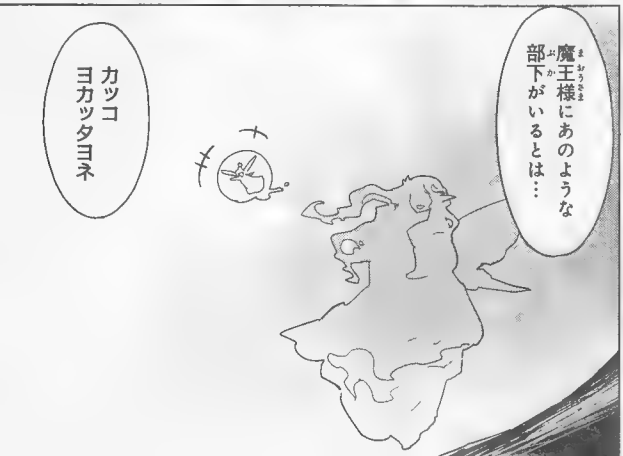
魔界の果て——
時の砂の滝が
落ちる滝壺に
ひとつの古い
ベンチがあり
それに座った旅人は
星の最果て——
「外なる図書館」へ
行くことができると
言われています
——彼女は熱心に
その伝承を
調べていました
「外なる図書館」
か……
わかった
しかし それは
伝説の場所
詳しい場所や
たどり着く方法は
妖精族でも知りません
そのようなことは
問題ではない
キリッ
魔王の命に従い
どのような場所であろうと
必ず見つけ出す
カッコイー!

妖精族はもとの領地に戻り今までと同じく
その民を治めて暮らすようにとの魔王の仰せだ
魔界を統べる魔王様の治世に幸いあれ
このご恩決して忘れません



我は探索の旅に出る
縁があればまた逢おう


道中のご無事をお祈りいたします
マタネー


魔王様にあのような部下がいるとは…
カツコ
ヨカッタヨネ

今代の魔王は
腰抜け…無能な王と
言われてきましたが
何かが変わり始めて
いるのかもしれません
あ……
ドシタノー？
思い出したのです
「外なる図書館」に
引きこもる
魔族のなかでも
変わり者の
一族がいると…
その一族は知識を求め
過去と未来を幻視し
「外なる知恵」を身につけて
憧れに魂を燃やすと…

…そして
今代の魔王――
「紅玉の瞳」は
「外なる図書館」
――そこから
やってきたと…

ほら
そこの根元だ
そっと
掘り返して
みなさい
うん！

わあっ
いっぱい
でてきたー！
やらせて
やらせてー
あー
わたしもー
ずるいー

コラコラ
まだ いっぱい
あるから
みんな順番にな
はぁーい
はーい
おお
やっているな
学士様

馬鈴薯の
収穫か
はい
もう二回目の
収穫です
ずいぶんと
賑やかだ
教育のために
通ってきている
村の子供です
今日は馬鈴薯
掘り会なのだ
…です

…いや
失礼
クス
ゴホン
女騎士殿
私はそんな
偉い者ではない
遠慮や敬語は
なしでいい
キャッ
キャッ
そ…
そうですか？
女騎士殿や
湖畔修道会の
協力のおかげで
この一年で大きな
成果が見えてきた
これからも
よろしく頼む
こちらこそ
世話になること
ばかり…だ
よろしくな
そうだよー
馬鈴薯はとっても
おいしいの！
焼いても
ホクホク
煮ても
フカフカ
わー
じゃろ
でも オススメは
揚げ馬鈴薯！
パリパリの中に
ホクホクでほっぺが
落ちそうなんだよー

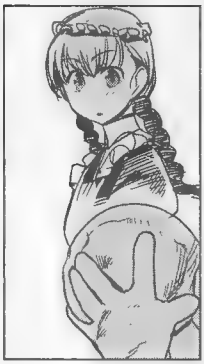
これ そんなに おいしいのー？
たべたーい
たべたいなー
ここれ お前たち
守士きを 困らせては…
うむ みんなで 食べるか！
いいのか？
たべれるの？
ほんと？
やったー！
馬鈴薯は売って 資金に充てるのかと
金はもちろん 欲しいが 独り占め するつもりはない
飢えなく 皆が豊かになる 方法を考えないと 先が続かない
そのためには 村の皆の手助けが 必要なのだ
広めるにはまず 身近なものに 素晴らしさを 伝えねばな

そうと決まれば
宴の準備だ
修道院の前庭を
お借りできるか？
もちろんだ
修道士たちにも
すぐ伝えよう
さあ
お前たち
今夜はみんなで
掘った馬鈴薯を
村の全員で食べよう
うちに帰って
父さん母さんに
そう伝えるんだ
料理の手伝いに
母さんを呼んで
きてくれると
助かるぞ
いいか？
はーい！

キャー
あはは
きょうそうだー
当主様
私たちも…
うん
修道会や村の人々に
馬鈴薯の調理法を
教えてくれるか
いきまーっす
いっぱあい
つくりまーす
めいどの
おねーちゃんっ
とーちゃんと
かーちゃん
ぼくのほった
ばれいしょ
よろこんで
くれるかな？

さぁ
お父さんたちに
今夜のことを
伝えてきてね
うん！

ええ
きっと
喜ぶわよ



さて
私たちも準備
しないとな
はい！

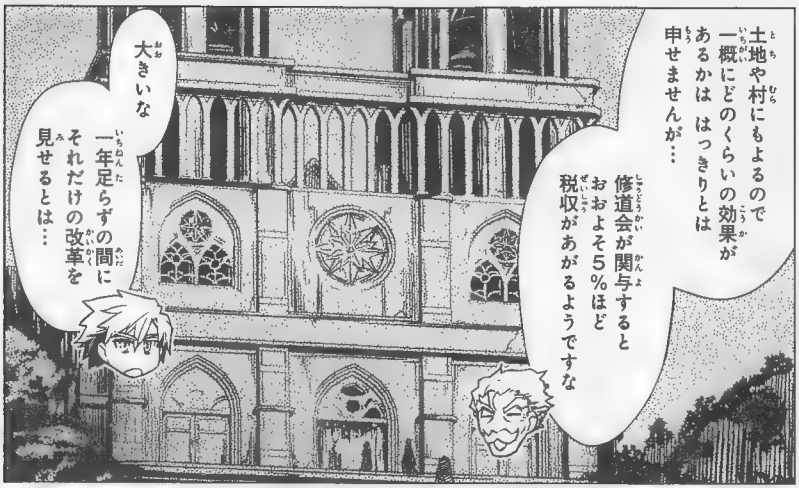
あぐ…

冬の国 王宮
冬の宮殿

熱っ
はふはふ
あちち…
ガチャ
失礼します
おお
それは噂の馬鈴薯ですな？
執事
ああ
これはうまいな！
冬の王子
なんでも旅の学士がこの地へもたらしたとか
らしいな

うまいうえに
俺たちのこの国の
痩せた土地でも…
もきゅ。
もきゅ
…栽培できるらしいな
詳しくは
こちらの書簡に
す…
用意がいいな
偶然にも
その話をしに来た
ところでしたからな
偶然なものか
侍女に馬鈴薯を
届けさせたのを
見計らって
来たのだろう
爺
さすがにそろそろ
手口が見抜かれて
きましたかな
若
若はやめろ
俺はもう
二十歳だ
ほっほ

——では
湖畔修道会が主導で栽培を推し進めているのだな？
そうなりますな
湖畔修道会は合わせて農業に様々な改良を施しているようで
これか…ふむ
四輪作
農機具の改良
修道学院の設立…学舎か
さらにこの度「風車」というものが作られたそうです
風車？
「水車」に似たものですが…
水の流れではなく風の流れを汲み取って動力にしているようですな
我が国北部の高地には充分な水源がありませんから
これを使って水を汲み上げれば畑にできる土地が増えることでしょう


土地や村にもよるので
一概にどのくらいの効果が
あるかは はっきりとは
申せませんが…
修道会が関与すると
おおよそ5%ほど
税収があがるようですな
大きいな
一年足らずの間に
それだけの改革を
見せるとは…

税は小麦で
納めますから
税収の形には
表れないものの…
この馬鈴薯は
農民の暮らしには
大いなる恩恵を
与えているでしょうな

爺の言うことならば
信じぬわけには
いかないな
ありがたい
ことですなぁ

何らかの施策を
するべきだろうか？
まだ始まったばかりの
ようですから
傍観していても良いの
ではないでしょうか

時が来れば
修道会の方から
接触してくる
ことでしょう
なるほど

修道会の指導者は…
女騎士ですな
挨拶くらいしないでいいのか？
顔見知りではないか
向こうは現役の時から思いこんだら一直線の高潔なる乙女でしたからなぁ
…おっぱいは小さいですが
私も恨みに思われているかもしれません
いわば裏切り者ですから
そうか…
すまんな無理やり登用したようなものなのに
もったいないお言葉です
若

今年は魔族の動きが鈍い
おそらくあの勇者の噂は真実なのでしょう

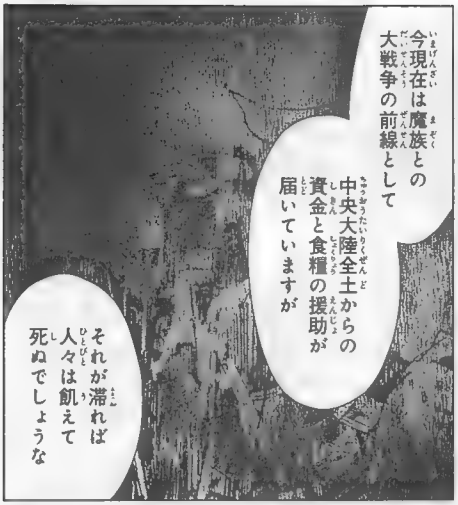
手を下したわけではないとはいえその勇者を死地に追いやったのは我々だ…

彼が生還したという情報はないのか？
ございませんな

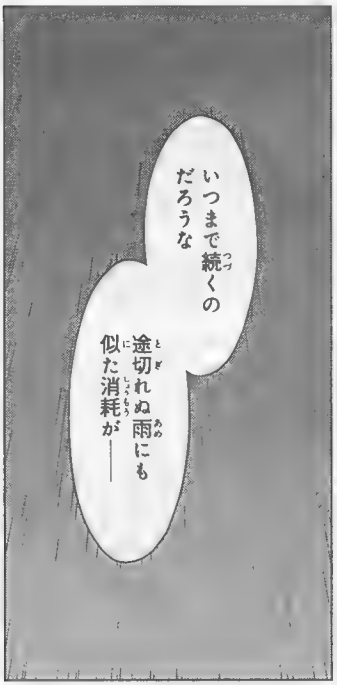
この戦争終わらせるわけにはいかぬのか

今戦争を終えれば真っ先に消滅するのは我が冬の国でしょう

この冬の国をはじめ
南部諸王国は気候も厳しく
十分な食料も穫れません


今現在は魔族との
大戦争の前線として
中央大陸全土からの
資金と食糧の援助が
届いていますが
それが滞れば
人々は飢えて
死ぬでしょうな

中央大陸の盾と
言えば聞こえは
いいが…
つまるところ
鎖につながれた
狗だ


いつまで続くの
だろうな
途切れぬ雨にも
似た消耗が——

馬鈴薯をはじめとした農業の改善は
我が国に差した光明かもしれないな
ええ
この文字通りのわずかな芽を育て大きな実りにつなげられればいいのですが
それをもたらした旅の学士…
名を「紅の学士」といったか…？
いったい どんな人物なのだろうな…
…メイド長
メイド長！

なんですか
まおー様
言われるがままに
服を着たが…
ちょっとビラビラ
しすぎではないか？
それに胸のあたりの
露出が多すぎる気が…
みっともない
駄肉なので
恥ずかしいですか？
ええーい
うるさい！
そ
そんなに
駄肉ではない！

女騎士殿も
「グラマーです」と
言ってくれたし
皆 そう
言ってる
ちょっぴり
母性的なだけ
ではないか
人格的母性のない肉を
駄肉というのです
今日の
メイド長は厳しい
ちょっと気が
立ってるんですよ
警備態勢を
整える関係で

どうなっている？
ホラーゴーストとナイトゴーストを配置しています
軍でも出てこなければ充分でしょうが…
ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ

…心配か？
相手が貴族や軍人ならばともかく
「同盟」の商人ですからね
その点に関してはまおー様にお任せするしかないわけで
信用なさすぎだな 私
いえ お手伝いできないことが不安なのです
しかたない これは避けては通れない関門なのだ
ペチ
ペチ
せめて勇者様がいてくだされば…

勇者に役目が渡るとすれば
それは交渉が失敗した時だからな
そうなったら逃げる段階だ
だから意味はない

…あんまり強がると殿方は不安だそうですよ
へ？
どういう意味だ？
さあ？

ガチャ
お客様を客間にお通ししました～
いま お姉ちゃんがお茶を淹れてます～
ばーん
語尾を不必要に伸ばさない
はぁい
なぁ
やっぱり この服の胸元はどうにかならないのか？
当主さま おっぱい格好いいよ♪
ま、たく二のそは…
さぁ まおー様
ああ
出陣だ！

ガチャ…
やぁ
これは！
ほほう
お待たせして
すまないな
私がこの館の
当主…といっても
無位無冠の学士だ
紅の学士と
呼んでくれ

はじめまして
私は「同盟」の南氷海交易を担当しております
青年商人です
今回のご挨拶に同行させていただいた会計でございます
以後お見知りおきを

辣腕会計

青年商人

終 第五話 我は黒騎士!

第五回

権利を守る目的で結成された互助組織

中世の封建社会においては、商人が自らの権利を守るため、ギルドや都市間同盟などさまざまな組織を結成した。

同盟は魔族との戦争に資金を投入して経済を活性化することで、さらなる利益をあげているようだ。

権益を守るためにつくられた組織

中世の中ごろになると食料生産は余剰が生じるほど安定しはじめ、多くの人々が都市部へ流入して経済が活性化したことにより商人が台頭する。やがて一部の有力な商人たちは、都市の発展に貢献することで政治舞台へと進出。自分たちの権利を守るため、組合組織である「ギルド」を誕生させた。当初、ギルドは構成員の交易特権を得るための運動を行い、やがては仕入れや販路の独占なども行うようになっていった。

ところが、近隣の領主たちが豊かになった都市から利益を引き出そうとしはじめたため、彼らの横暴に対抗し自分たちの権利を守る自衛手段として同盟を結成する都市も現われた。なかでも、独立精神が旺盛だったイタリアの諸都市は、自治権を守るために「ロンバルディア同盟」を結成。ローマ教皇の支持を得て、神聖ローマ帝国の侵攻に対抗したことで知られている。

同盟といえば、ドイツで結成された「ハンザ同盟」も有名だ。こちらも加盟した諸都市を仕切っていたのが有名商人であることや、軍事同盟的性質を帯びていたことはロンバルディア同盟と同じだが、領主と対立するのではなく、対等な協力体制を築くことで都市を発展させた点が異なる。

こうした組織に所属する諸都市は、自治を認める特許状を発行してもらうことを引き換えに、皇帝や教皇といった権力者に一定の税を納めていた。都市が発展すれば税収も増えるので、権力者たちも積極的に都市を援助したというわけである。

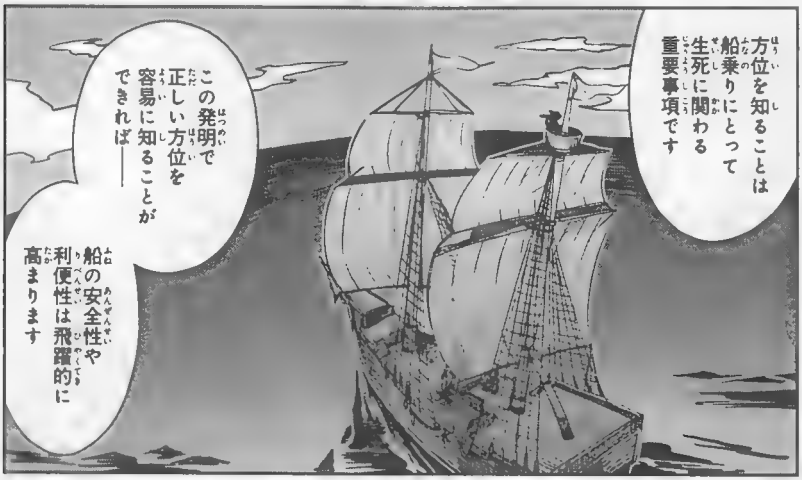
「まおゆう」での「同盟」の全貌はまだ不明だが、コミックス第1巻118ページでの魔王の説明から、交易商人によって結成された組織であると考えられる。中世のギルドと同質と考えてよいだろう。ただ、その規模は遥かに巨大で、影響力は中央大陸全土に及び、組織の総資産は南部諸王国を5回買収しても余力があるという。

国境に関係ない連合組織という点では、現代の多国籍企業のようなイメージだろうか。現時点では、同盟が独自の軍事力を保有している描写はない。同盟は、経済への影響力と莫大な富を武器として、所属する商人の権益を守っているのだろう。

青年商人との交渉で、魔王は同盟が商人集団という特性を突いて説得に成功した。

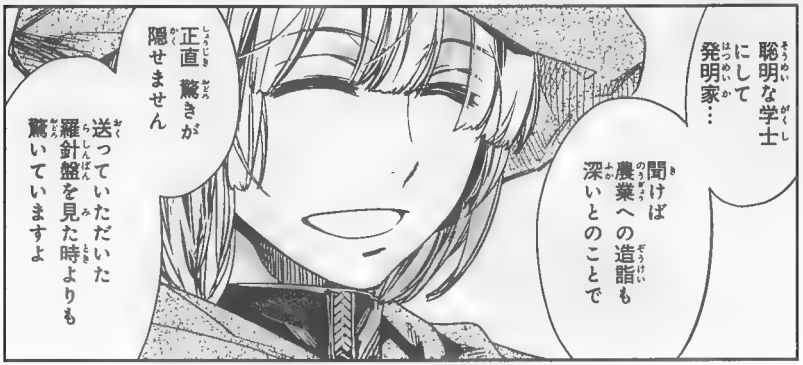
密かなブーム

まおゆう
魔王勇者
第六話



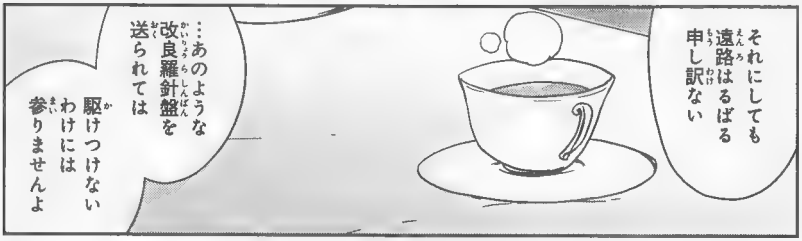
Archenemy and Hero 6th chapter

第六話 三つの道の一つを選べと



そんなに褒められては何を話していいのか…
言葉を失ってしまいますな
まおー様ファイトです！

いえいえ
学士様はその英知だけでなく
美しさでも我らに光を与えてくれるようですよ
お世辞とはいえすごい威力ですね
交渉を有利に進めようと思う女の浅知恵だ
どうか笑って許してほしい
おおまおー様気合いの入った防御ですね！


それにしても遠路はるばる申し訳ない
…あのような改良羅針盤を送られては駆けつけないわけには参りませんよ

参上が
遅れたことは
申し訳ありません
私のような
駆け出しの商人が
「同盟」において
今回のような
大規模な案件を
こなすにあたっては
様々に根回しが
必要だったのです
ではさっそく
あの羅針盤の
使用権について——
いや
その前に
まずはこれを
見てほしい
？
これは…？

植物…
ですか？
本日の用件は
羅針盤に
ついてでは
ないので？
うむ
これは
玉蜀黍という
穀物だ
最大の特性は
水が少なくとも
順調な生育が
望めることだ
むしろ水が
多いと生育に
悪影響がある
もちろん最後期の水分は必要だけどな
また
発芽の温度として
30℃が必要となる
水を多く必要と
しない…
そして
30℃…
ですか
かなり高い
ですね
ああ
そうだ
小麦の栽培とは
考え方をまったく
切り替える
必要がある

つまり
この玉蜀黍は
今まで植物の耕作に
適さないとされていた
大陸中央部の荒地に
ふさわしい作物なのだ

……！

食用として
利用する場合は
完全に完熟させて
乾燥させた粒を
製粉する

そのままでも
焼いたりして
食べられるが

パンにしたり

まんじゅうにしたり

この粉には
香ばしくて
わずかな
甘みがあり

乾燥させる
ことにより
貯蔵・保管にも
優れている

畜産のための
飼料としても
大麦やカブの
数倍の効率が
見込める

ブー
ブー

また
この食物からは
少量ではあるが
油を取り出す
ことが可能だ

馬車いっぱいの
トウモロコシ

粉

油

しかも この油は
製粉するのと
同時に採ることが
できる

油…
油の需要は様々な用途で高まっていますが…
商人殿
これは新しい商売の形だと考えてほしい
今はまったく役に立っていない荒野に人を送り
玉蜀黍を栽培するための開拓村をつくる
まったく未開の地の開拓には手間も資本もかかろうが
その分 計画的に…
大規模かつ集約的な体制での栽培を可能にするだろう
そうして新しくできた開拓村は完全に「同盟」影響下にある巨大な市場になるだろう
玉蜀黍以外の作物をはじめ
木材や塩・鉄・布…ありとあらゆる消費物を購入する新しい顧客となる

それは
つまり…
商品でも
栽培方法でもなく
新しい「概念」を
売りたい と？
この「同盟」に…
そうだ
わかります
私には——
…その価値が
貴女の言葉は…
この中央大陸の
どの都市でも…
…いや
この世界の
どこでも聞いた
ことのない——
あはは は
良い顔だな
はい？

女におべんちゃらを言っている時より数段良い顔だ

今の話を聞いては真面目にならざるを得ませんよ

しかし…よいのですか？

今の言葉も…そして送っていただいた羅針盤も

すべて「考え方」を基本にしたものです

つまりは真似…複製ができるのです

私たちがそれらを複製して…

貴女とは無関係に事業を進めるとは考えないのですか？

貴女は利益をどうやって守るつもりなのです？

それについては諦めている

技術や概念を研究することは素晴らしい

利益を追求することも結構

私もお金はあれば欲しい

研究にはコストがかかるからな

しかし

単一技術や独占可能なマテリアルではこの世界に与える影響は限定されざるを得ない

必要なのは「転換」と「突破」だ

それは神学的な話でしょうか？

複雑すぎてわからないのですが

そちらの商人殿はわかっているようだ

ガタッ

選ぶ必要があると？
選びに来たのだろう？
交渉という言葉の意味は それだと心得ている
貴女は何を望んでいるのですか？
勝利でも敗北でもない
戦争の早期終結

「同盟」が
魔族との
戦争における
最大の
スポンサーだと
いうことは
心得ている
魔族は
人類の敵です
それとの戦いに
我らが協力するのは
当たり前のことでは
ありませんか
それは公的な
見解であろう？
正式見解です
高きと
低きを
北と
南を
炎と
氷を
相容れない
光と影を
仲介し
妥協し
取引することで
利益をあげるのが
お主ら商人ではないか？
貴女は…
「同盟」の
味方ですか
敵ですか
取引相手だ

二つの道の
一つを選べと…
言うのですね
人間として
貴女の先ほどの発言は
裏切り行為です
私は貴女をこの場で
断罪し告発すべき
かもしれません

敵と味方の
二分割では
この世界は
あまりにも
惨めにすぎよう
…試されて
いるんだね
僕らは
貴女は何を
見ているんですか？
私は学者だが
専門は経済学でな
物と金の
流れ
利益と
損害
魂もつものが
生み出す社会に
おいて
たゆまず流れる
交流の歴史と
未来を
専門としている

利益と損害…ですか
ああそうだ 商人殿と同じものを見ているだけだよ
それをもって人類すべてを裏切れと？
この戦争を終結させようとする貴女のみる夢が
どのような色をしているかわからない私ではない！
信じている

私の…
…「同盟」の
我ら人間の
何を信じると
言うのです？
損得勘定は
我らの共通の
言葉であることを
それは
この天と地の間で
二番目に強い絆だ
あはははは
ドッ
そうだ まさに
その通りだ！
人間である前に
商人たれ
教会の敬虔な
信徒である前に
商人たれ
まさに「同盟」の
訓辞通りじゃないか

私は純粋な
契約主義者なのだ
奇遇ですね
私もなんですよ

作りましょう
我らが未来を
照らす光となる
契約書を――

お気をつけて
お帰りください
近くに隊商を
待たせて
あるのだろう？
ははは
隊商ね
こちらも
警戒はしていた
お互い様だ
まったく
今日は驚きの
連続だ
ああ
心臓に
悪い
服も
恥ずかし
——そうそう

損得勘定は
二番目に強い
絆だ…
そう
おっしゃい
ましたね
では 一番は
なんなのです？
知れておる
愛情だ
――それは
…くくく
あはははは
ああ
すごい！
素晴らしいな
一日に二回も
こんな気持ちに
させられるとはっ！
子供でも
知っていることだ
確かに！

私は貴女に
言いました
二つの道で
迷っていると
貴女を
殺すことは
すっかり
諦めましたからね
これは
もう――
…求婚するしか
ありません

そ、そそ
それはなんだ!?
なんだって結婚の申し込みですよ
な、な
なんて軽率なことを言うんだ!
恥を知れ!
おやおや
貴女があまりにも明晰な思考をなさるので世間並のたしなみを忘れてしまっていました
確かに持参金も贈り物もなしに求婚するなんて先走りすぎましたね
われ
われ
私には
その…

いえいえ
このようなことは腰をすえて取り組むタイプですからね
粘り強さは決断力とともに商人の重要な武器なのです
いやっ
いくら時間をかけられてもそんなことは…
またお会いしましょう麗しの君よ
…そう呼ぶのは構いませんかね？
だ
ダメだダメだー!!!

魔界
竜族の神殿
ビリ…
ビリ…
ドォォォ…ン
ズズ…ン ビリ…
まだ…
続いて
いるのか
ゴォ…ン
あの大公様と
ここまで…
オォ…
どうか お休みに
なってください
公女様
このままでは
公女様の
お体まで…
よい
妾は
ここで待つ
お父様の勝利を

火竜大公

ゴオオオオオオ

ぬ……
ウウウウ
勝負アリだ
火竜大公
負けを認めろ
なんのッ
これしきの傷……！
ウウウウ
うぁー…
どうすればいいんだよ
ひーばーんつかえさせ…
我を負かしたいのなら命を絶てばよかろう
手加減などくだらぬことを…
我を愚弄しているのか!?

別に殺したくてやってるわけじゃない
軍勢を退いてさえくれればいいんだ
それは出来ぬ！
火竜の勇士によって「開門都市」は奪還する！
我らが聖地たる「開門都市」には先の侵略以来人間どもの軍が駐屯している――
魔界
開門都市
ゲート
それを取り戻すのは我らが火竜族の…いや 魔族すべての義務であり悲願！
だというのに魔王の執行官たる貴様がなぜそれを止めるのだ!?

魔王は
そんな命令は発して
いないだろう
魔王に
逆らうのか？

腑抜けの魔王など
当てにしておらん
我ら竜族のみで
聖地は取り戻す！
誰に口を挟まれる
謂れもないっ！

では 俺を
倒していけ
勝者こそが
神聖にして正義
それが魔界の
不文律だろう

……！
ならば我を
殺すがよい！

魔界の溶岩の中で
生を受けた
この火竜大公
逃げも
隠れもせん！
ガオオオーン
なんかもー…
難しいっつーか
面倒くさいっつーか…
向かってくる敵を
かたっぱしから
ブッ飛ばせた頃が
懐かしい…
ボボン！
いこせ、
ボボン！
何を
言っている!?
いくぞ！
待て！
では
こうしよう
この黒騎士が
次の春までに
開門都市を
取り戻す

火竜の一族が
気にかけているのは
誇りだろう？
魔族の聖地が
人間に占領
されているのが
許せないわけだ
だとすれば
魔王の軍が
開門都市を
取り戻せば
問題なかろう
…ふむ？
さすれば
魔族は聖地と
誇りを取り戻し
魔王は柔弱という
評判を払拭できる
黒騎士が
魔王の名に
かけて誓おう

できるというのか？

開門都市に駐屯しているのは人間界最強の軍隊

我ら竜族は手を貸さぬぞ

ああ やってみせるさ

もし 約束を違えれば容赦はせぬぞ？

その時は魔王はその位を譲り渡すだろう

黒騎士が約束する

よかろう
マジで!?
うむ
よかったぁ
納得してくれなかったらどうしようかと思ったぜ
ふん
いつでも我にとどめを刺せたクセに
我らは魔王の臣民同士
そんなことはしたくない
この身を張ってでも守らないとな
く……
がはははは
びくっ

お主には侠気があるな！
気に入ったぞ
バン
バン
バン
ぉ…ぉぉ…
誰か
誰かある
ガッ
公女を呼んで参れ！
ととととと
お父様
妾はここに
火竜公女
えーと…
誰？
我の娘だ
よく似ておろう

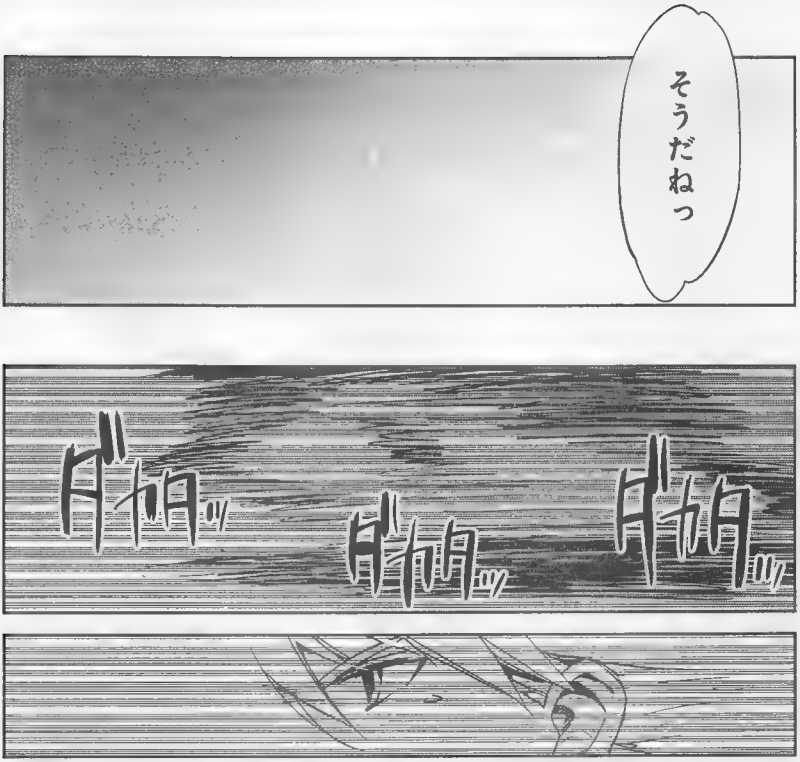
お父様
もしや…？
うむ
この男は我よりも強い
不服はなかろう？
？
？
約束を見事果たした暁にはこの公女をくれてやる！
ばはは
妻にでも妾にでもするがいい！
ニヤ

ちょっと
待てぇえ――!!!
がはははは

ふっふふーん♪
るーるるー♪

ご機嫌ね
うんっ
お鍋みがくの
楽しーねー
そうね
こんなに
暖かくて
きちんとした
仕事があって…
幸せね
あたしねー
今度は
せーれー様の本で
勉強するんだよー
ちゃんとした
言葉を覚えると
モテモテ
なんだって！
眼鏡の
おねーちゃんが
言ってた
順調に
頑張ってるのね
メイド長様は
面倒見がいいから
でも
怖いよ？
すぐ
怒るよ
怒ってないよ
叱ってるだけ
本当はとっても
優しい人よ

おねーちゃんは
年越し祭は
どーするの？
村の真ん中で
男の子と女の子
たくさん
踊るらしいよ？
おねーちゃん
いっぱい言葉
おぼえたから
きっとモテモテだよ
私はいいわ
メイドの仕事が
あるもの
当主の
おねーちゃんも
元気ないね
おにーちゃん
帰ってくれば
いいのにね
そうね
――そうだ
年越しの祭には
何かプレゼントを
用意しましょうね
館のみんなに


そうだねっ
ドカ
ドカ
ドカ
ヒィィィ……ン
若か
爺じい
父上は!?
ばっ
諸王国会議に向かわれました
クソッ
俺もすぐに向かう!

冬越し村の視察…
かないません
でしたな
そうだな
行っている場合じゃなくなった
魔族の侵攻が緩やかなこの時期こそ内政に取り組むべきなのに…
中央はそれすら許さないのか
魔族の邪悪さと恐怖
人間の勝利をアピールしないと威光が保てない…
そんなことを考える連中もいるのでしょう
我が国も戦争がなければ金が送られてこない…
盗賊が来なければ番犬に食わせるエサはないということだな

バーン
戦場となるのは
やはり…？
ああ

人間世界
唯一の
魔族の版図…
極光島だ

羅針盤の発展と行動圏の拡大

西欧に大航海時代をもたらした画期的な発明品である羅針盤は、中国における風水の道具である羅盤を元に作られた。

魔王が考案した羅針盤は、船が大きく揺れると使い物にならない欠点を克服したものだった。

画期的な発明だった羅針盤

羅針盤の中核をなす磁石が発見されたのは、紀元前600年ごろに古代ギリシャで天然の磁鉄鉱が産出されたのが最初と言われる。しかし、羅針盤が誕生したのは、遠く離れた中国であった。紀元前240年以降には中国でも磁石の存在が確認されており、それが南北を指し示すことを利用した「司南」と呼ばれるレンゲ型の方位磁石がすでに利用されていたという。

その後、紀元25年に誕生した後漢の時代に、方位に関する知識が深められて司南を改良した「羅盤」が誕生した。羅盤は風水で使用する基本的な道具で、建物の向きや立地環境を計測するもの。中央に方位磁針があり、周囲には東西南北だけでなく、十二支を二周して24分割した方位が刻まれている。

羅針盤が西欧に伝わった経緯については諸説がある。11世紀の宋の時代に中国で水に磁針を浮かべる原始的な使い方が考案され、これがアラブ人を経由して伝わったという説や、マルコ・ポーロが中国から持ち帰ったものを改良したという説などさまざまだ。「まおゆう」では、青年商人が「従来は磁石を水に浮かべただけのもの」と発言しているので、方位磁針を水に浮かべる方法が伝えられたという説を基にしているのだろう。一方、魔王が考案した羅針盤は2つのシャフトで支えることにより、大きく揺れる船上でも常に水平を保つような設計になっている。おそらくは、羅針盤の台座を船体に固定して使うものなのだろう。

実際の伝播の経緯はともかく、歴史上羅針盤の出現が航海技術の発展に繋がり、大航海時代の幕開けとなったことは確かだ。中世の西欧世界でも「まおゆう」の世界でも、羅針盤は画期的な発明だったというわけだ。

船の航行がより安全になれば、それまでリスクを恐れていた人々が新たに海へ乗り出す可能性もあるし、何より航海の範囲が拡大することで海洋交易のさらなる活性化が見込める。

だからこそ、魔王から送られた改良型の羅針盤を見た青年商人は、それが莫大な利益をもたらすことを理解し、独占使用権の交渉のために、魔王のもとを訪れたのである。

「板子一枚下は地獄」という言葉があるように、航海に危険はつきものだったのだ。

まだ見ぬ誰か

公女よ
突然押し付けた形になったがよかったかの？
お父様を倒すほどの勇士です
異論はありませぬ
ふむ
では他に我を倒すような者がいたらどうする？
そんなことがあればその時考えます
まぁ
あの方以外にいるとは思えませぬが

どうやら決まりらしいね
この冬でござるか？
…戦争になるのか
氷の国の王宮にいる叔父が知らせてくれたんだ
どうやら大規模な海戦を仕掛けるらしい
海戦か…この近くになるのかなぁ
邪悪な魔族へ鉄槌を下す時が来たでござるね！
まおゆう
魔王勇者
第七話
君は行くのか？僕は叔父の船に乗せてもらうつもりだ
もちろんでござる！戦こそ武人の誉れでござるよ！

第七話 Archenemy and Hero 7th chapter

私にはわからないことばかりだ

人間世界における
魔族の根城でござるな
邪悪で卑劣な魔族に
鉄槌を下す日が
きたのでござる！
おい
ゴザル
はっ
嘲りも侮蔑も
戦場では不要だ
そんな心の動きは
生き残るための
敵のひとつだと知れ

諸君らに
今一度尋ねる
諸君らがここで
学んでいるものは
何だ？
？

ええと…
商売につながる
学問？
剣士殿と
女騎士殿の
見事な剣技で
ござる！
優雅な
知識！
違う

諸君らは
ここで
…あの腹立たしい
胸をした学士に
「経済」なる理論を
学んでいる
また 修道士からは
実践的な医術と
農業の基礎を
そして私は剣や槍
馬術に限らず
こと戦に関して
ひと通り以上の事を
教授したつもりだ

それらはすべて
一介の兵卒の身には
過ぎたるものであり
王の隣に立って
戦を治めるための
知恵と技だ
忘れるな
諸君らが身につけた——
あるいは身につけようと
しているものの価値を

それはただ
「敵に勝つ」ための
ものよりも——
もっと意義のある
ものなのだ

目を見開け
耳を澄ませ
この世界のすべてを
勝つための知恵
としろ
そして
すべてを疑え
本当にそれで
良いのか と
その上で
諸君らが戦に
行くのならば
私は止めない
だが
諸君らが死ぬのを
許すつもりはない
諸君らは死ぬには
あまりにも未熟だ
もし 死ぬにしても
その瞬間まで諸君らは
何を間違えたのかも判らず
きょとんとした
表情で その瞬間を
迎えるだろう
私はそのようなことを
許すつもりはない

さぁ
教練を始める！
今日は普段の
3倍は厳しいぞ
覚悟しろ！
ヒィイイ

…なーんて
ことをなー
偉そうに
言ってもねー
代理教師が何
言ってんだって
感じだよねー
そんなことは…
勇者様より
立派に務めて
いらっしゃると
思いますよ？
どうぞ
コト
あいつは
いい加減
すぎるんだ
あーがと

死んだと思ったら
一年ぶりに現われて
この村に来てみれば
旅に出て一年も
帰ってこないとか
あ甘い
信頼されてるって
思わなきゃ
やってられない
でも
そう思って
らっしゃるん
でしょう？
可可亜のお茶です
ヘナヘナ
コレガ…
…うん
そこが
素敵です
……
…最近
メイド長に
似てきたぞ？
そうですか？
うん
仕草とか
そっくりだよ
……
何が何やら
わからないです

文字も読めるようになったし数字も覚えました
できることはたくさん増えました
——でも私は…
？
人間にはなれたのでしょうか…

試験場と人員の追加を…と
これで…
よし
修道会への要請は書き終えられましたか？

では こちらの 羅針盤関係の 書類のサインを
量産に目処が ついたか
青年商人殿は 仕事が早いな
修道会からの 報告が来ています
馬鈴薯の 収穫も 順調だな
しかし そろそろ 連作障害が 出る頃か…
これは？
同盟からの 請求書です
なんなのだ この忙しさは!?
やってもやっても 終わりませんねぇ
まさか ここまで仕事量が 増えるとは…

…よし
メイド姉にやらせよう
彼女にですか？
無理か？
…いえ
大丈夫です彼女ならできます
そうか
では
この書類整理は今日からあやつの仕事だ
ぽて…
…もう秋だ
半年も音沙汰なしだぞ

手紙で報告が来てるじゃないですか
そんなもの…魔物を倒したとかそんなことばかりではないか
こうしている間にも変なフラグを立ててどこぞの娘とイチャイチャしているかもしれん
もんもん
あらあらまぁまぁ
……
寂しいな…
今日の仕事はここまでにしましょう
甘い紅茶でも淹れてきますね
んー
パン…

…だそうですよ
勇者様？
いやぁ…
フラグとか
なんのことだか…
ガチャ…
お茶と軽い食事を
お持ちしました
どもっす
こっちも
今回の報告書
書き終わりました
あっ
つまー
……
…どうして
魔王様を避けて
らっしゃるのです
時々なら
転移魔法で
帰れるはず
ですよね？
あー…
うん

…魔王が
あんまりにも
俺に頼らないから

最初に
「我のものになれ」
なんて言われて
俺の…勇者の力が
必要なのかと
思ったんだよ

なのに あいつ
俺の戦闘能力は
当てにしないで…
戦わないようにしてさ
まるで 俺のことが
大事みたいに…
好きみたいにするから

魔王様は
勇者様のことを——

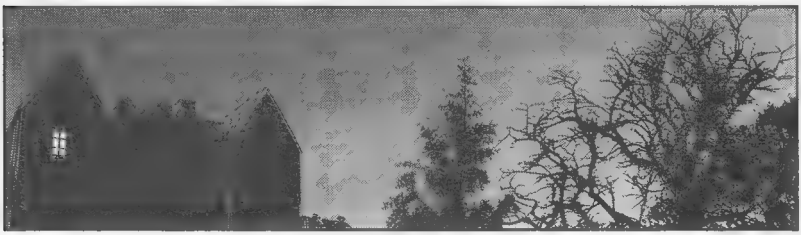
わかってる
そこまで
ばかじゃない
向けられた
好意を信じられ
ないとか…

そういうんじゃ
ないんだ

だって 俺
死んじゃうしさ
人間だから
…魔王よりも先に
戦うしか
能がないし…
そんな俺が
魔王と想いを
重ねるって
それは なんだか
すげぇ不実な気も
するんだよ

メイドごときが
口を挟める問題でも
ないのでしょうが…
ひとつだけ
勇者様の
すべては
魔王様のもの
だとすれば
勇者様の感じる
ためらいも
思いやりも
願いや希望…
祈りも
秘めたる想いも
それらもすべて
魔王様のもの

勇者様の手に入れる幸せも不幸も…
それをお忘れなきように



どうだ？精度が上がったと銅の国の技術者も自慢していたよ
いいですね
近く海戦があります
量産体制をもっと整えたいところですね

ところで
聞いたぞ
お前さんが
恋をするとはね
金貨と
添い遂げるものと
思っていたが
中年商人
同床異夢なんて
言葉もありますが
彼女とだったら
異なるベッドでも
同じ夢を見られます

契約相手というのは
神聖なものです
恋や愛なんかより
貴重ですよ
惚気か
かなわんな
僕の星
ですからね
さて…
戦の結果は
どうなるでしょうね

魔界
開門都市
ギャーーーー
ヒヒヒ
ギャーーー
ガチャーッ
ほら踊れ！
魔族ごときが
逆らうんじゃねぇ
きゃあっ
ケチケチ
すんな
ピュー
ギャーーー
ギャー
あーあー
またこれだ
いい加減に
してほしいぜ

お客さん
そういうことが
したいなら
一本裏手の宿屋に
行ってくれない
ですかねぇ？
何だと!?
誰のおかげで
ここの暮らしが
成り立っていると
思っているんだ！
大丈夫か？
は…はい
すみません
たんもちろん
感謝してますよー
聖鍵騎士
ボウ…
これを見ろ
…わかるか？
……！
それは
魔王さまの
紋章…
魔族娘
この街の状況が
知りたい
話はできるか？
…はい
ギャハハ
マスター

この娘 ちょっと借りてもいいか？
ほう？
酒手ははずむよ
そういうことなら構わんが…
あまり無茶はしてくれるなよ？
ああ
ちょっと話を聞くだけだ
話…ねぇ ほどほどにしてくんな
若いなぁ わはは
さて と…
なんか飲む？
い… いいです
とりあえず街の状況を…
って そんなに怯えないでくれよ
す すみません
わたし痛がってばかりで…
？
しゃる

わたし
その
ヘタで…
じょうずに
できなくて
ごめ
ごめんなさい

い…イヤ
違う！
痛いことは
しない！
って 痛くない
こともしない！
話を…
って 足を
開くなー!!!

…じゃあ
街の四方に守備部隊
街には治安維持軍
それぞれ2千が
配備されてるんだな
はい…
街の中にいる軍団は
ミブンが高いそうです

街には さっきの
酒場のオヤジのように
軍ではない人間も
いるようだが…
はい…
たくさん
お店あります
魔族は人間の
半分くらいしか
いないはずです
魔族は
奴隷扱い…
なのか？
ドレイ…
わかりません…
ひどい痛いことされて
やりたくないこと…
させられ…て……ます

魔族には…
地獄だな
…仕方ないです
負けたから
負けたのは
悪だから
これが勇者が
勝ち取った
戦果なのか…
俺たちが地竜王や
妖将姫と戦って
手に入れた
開門都市——
それが
こんな
ふうになっちまう
のかよ…
人間が勝ったら
魔界は全部
こうなるのかよ！
魔族が勝ったら
人間界は全部
こうなんのかよ!?
あ…
ゴメンなさい…
びくびく

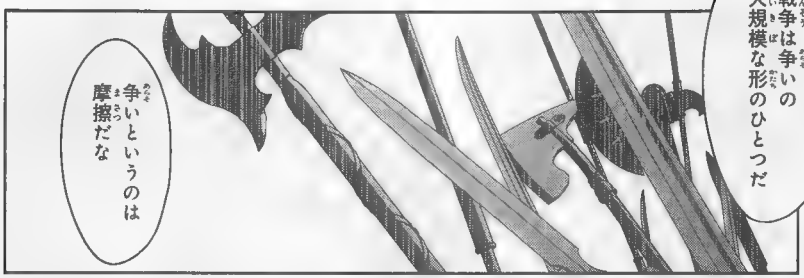
あけど…
東の砦の人は
あんまり乱暴…
しないって
魔族が
逃げるなら
東に向かえって
言われてます…
東の砦…か
ふむ…
黒騎士さま
お役に立てず
その——
いや 十分
役に立った
情報が
手に入って
ありがたい
えーと
だから…
金の勘定が…
うーん…
あの…
聞いても
いいです…か？
ん？

黒騎士さま…はなんで…
なんで…人間なのに…
…魔王さまの騎士ですか？
あー…説明が難しいんだけど
つまりなんと言うか…
魔王のものなんだ俺は
じゃあ魔王さまに…負けた…のですね
へ？
ちがう…ですか？
魔族は…勝ったものが負けたものを
……その自由に…します…から
そういうことか…
それは違うな
そうか違うんだ

俺は魔王のものだけど
負けたから持ち物に
されたわけじゃない
勝ったら正義
負けたら
何をされても
仕方ない
そういうのじゃない
そういうのじゃない
事実が俺なんだ
俺は――
「丘の向こうへ続く道」だ

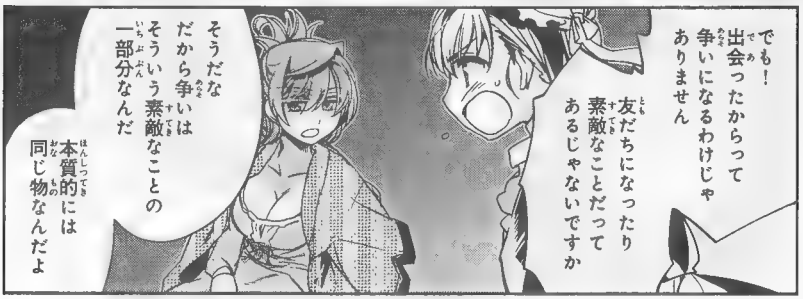
コツコツ
書類の分類整理が終わりました
ごくろうさん
うん そこに置いておいてくれ
これは？
ああ それは火箭だ
まぁ 武器の一種だな
…やっぱり武器も作るんですよね
ああ…
備えないのは愚か者だ

当主様
その…
戦争って
何なのでしょう？
なぜ起きるのですか？
なぜ終わらないのですか？
それは ずいぶん
難しい問いだな…
なぜだろう
なぁ
…当主様にも
わからないのですか!?
わからないよ
私をなんだと
思っているんだ？
この世でわからない
ことがない方かと…
私には
わからないこと
ばかりだよ


戦争は争いの
大規模な形のひとつだ
争いというのは
摩擦だな

異なる二つが
接触した時に生じる
軋轢と反発…
作用と反作用の
ある部分が争いなんだ

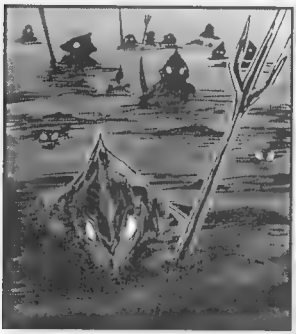
村に
二人の子どもが
いて出会う
二人は別の存在だ
別の存在が出会う
あの子は僕ではない
僕はあの子ではない
そこで起こることの
一部分が争いなんだ


でも！
出会ったからって
争いになるわけじゃ
ありません
友だちになったり
素敵なことだって
あるじゃないですか
そうだな
だから争いは
そういう素敵なことの
一部分なんだ
本質的には
同じ物なんだよ

そんなこと
信じたく
ありませんっ
私もだ
でも 私が学んで
きたことによれば
そうなんだ
戦争では
たくさんの
人が死ぬ
でも そんな悲惨も
出会いの一部なんだ
知り合うための過程の
一形態なんだよ
これが出会い
なんですか？
辛くて悲しくて
ひもじくて寒い
だけじゃないですか

争いは
関係の一形態だが
関係のすべてが
争いなわけではない
友好的な関係や
支援関係だって
この世にあるのは
事実だ
では なぜ
戦争なんて…
…なぜ
なぜ？
私は
必要だから
だと思う
そんなものが
必要だなんて
おかしいです
「いずれ卒業する
ために必要」…だと
逆説的だが
そういう事象も
あるのかもしれない
最初から大人として
生を受けることが
できないように…

私にも本当は
わからない
…わからないこと
だらけだよ――…
ゴオオオ



わかっていたことではないか！
兵の数など船上にあっては意味をなさん！
魔族が得意とする海戦を挑んだ時から結果は見えていた…
若
傷に障ります
傷など…
こんな戦で数多くの兵を失い…
――父上…！

ゴオオオオオ
どうだ!?
味方の船の一部は離脱できた模様です
キーン
!
ぐあ…

…あとは
任せたぞ
息子よ

南部諸王国軍
軍議
戦船二百隻のうち
帰還できたのは15隻
生き残ったのは
五百人たらず…
氷雪の女王
だからワシは
反対したのだ！
水棲魔族への
対策なくして
数で押し切ろう
などと…
鉄腕王

総大将たる
貴殿のみ
おめおめと
逃げ戻るとはっ
うっ
うるさいっ!!
我は王族なのだ
生き残る義務がある!
白夜王
貴殿が助かったのも
逃げ出す時間を
冬の国の戦船が稼いだ
おかげではないかっ!
心中
お察しします
いえ
父らしい
最期でした
ハン
あの島が奪われたのも
冬の王が防備を固めて
いなかったためではないか
このくらいで
その失点は
ぬぐえぬわ

あの当時
聖鍵軍の遠征により
南部諸王国の兵力の
多くも魔界侵攻に
投入されていました
まさしく
総力戦
だったのです
その間の防備を
罪に問うならば
我ら皆が負うべき
でしょう
それを
いうなら
今回の作戦も
聖王国と
光の教会からの
提案によるもの
南部諸王国が
その提案を断れる
立場だと思うか？

冬の王に
罪がないのなら
我の罪もないわっ
我は総意によって
総大将を務め
艦隊を率いたまで
その依頼は
聖王国と
光の教会から
だったのだ！
二百の船が
壊滅したから
どうだというのだ
これでまた
新しい艦船が
手に入るではないかっ
言わせておけば…
ドドド

――黙れ
父は父の信じるところを為しその過程で命を落としたのだ
そのことで白夜王――
貴公を責める気持ちは私はもちろん
冬の国の民のひとりに至るまでもってなどいない

しかし！
だからといって
今回の敗北の責任を
免れ得るはずもない
無策によって
六千の将兵の命を
散らしたのだ
王族ならば
その意味がわからぬ
はずがあるまい
ハッ
責任だと？
よかろう
いくらでも
とろうではないか
どうせ
金であろう
いくら欲しいのだ
どれだけ払えば良い？
南海の槍武王の末裔は
金の亡者というわけだ
…貴様
ぬけぬけと
…潮時
か

中央からの使者はなんと？
追加の援助が必要であれば軍船で払う　と…
ふんっ
どうあっても戦争させる気だな
中央や教会の意図は戦意の高揚です
勝てば良し
もし負けたとしても
その被害をテコに
魔族の脅威を
全世界に訴えて
次の聖鍵遠征軍を起こすつもりだとしか思えません
――どちらにせよ
我らの手には選択権がない

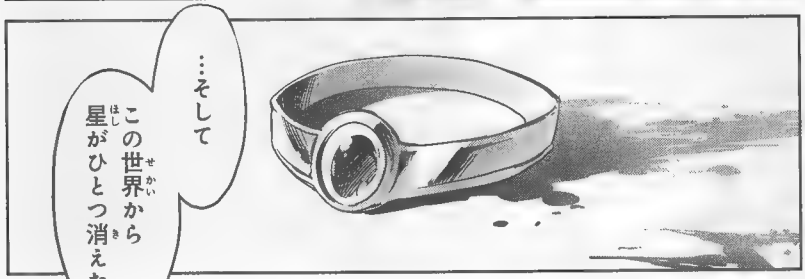
それみろ
結局は狗に過ぎんのだ
狗で結構
狗なりの意地の見せ方を白夜王のお目にかけるとしよう
？
！まさか
いけませんっ
ガタン

今をもって
冬寂王の名を継がせていただこう
この冬の間に第二次極光島奪還作戦を決行する！

……！
なに…!?
冬の国単独で!?
危険すぎる！

…昨年魔王が深手を負い
魔族の動きは現在に至るまで鈍っている
？
！
！
それを行ったのはひとりの人間…勇者の功績だ

彼をひとり行かせたのは…そして彼を葬り去ったのは
我らの…南部諸王国の罪なのだ
この会議が負うべき重責をたったひとりの少年に負わせてしまった


…そして
この世界から星がひとつ消えた

勇者だと？
フン
たかが一兵卒ではないか！
中央の太鼓持ちに成り下がった輩にはわからぬ
王族には王族なりの信義というものがある
すなわち
民を護り国を護るということ
その二つは必ずしも一致しないゆえ時には非情であり
――我が父のように苦渋の決断を避けられぬこともある
王族は一生の間その責を受け
罪を背負っていくのだ

私は前王の子として
極光島を奪還する
それが勇者を
死地に追いやった
我らの義務なのだ
勇者がもたらすはずだった
光の千分の一でも
南部の国々に
もたらさなければならない
できるかな
小童が
…その答えは
戦場で証明しよう

若…
会議は決裂だ
至急使いを出せ
はっ
誰にですかな？
次の戦の…
総司令官となる人物だ

第七回

戦争が起こる原因とは①

戦争はなぜ起きるのだろうか。
人類の発展とともに変化する
戦争が起きる要因について
考えてみよう。

メイド姉が何気なく発した疑問は、
人類が未だ解決できていない問題である

人類社会の発展と戦争が起きる主な理由

戦争とは厳密に定義付けすると、国家もしくはそれに準じる集団が目的を達成するために行う戦闘行為を指す　だが、ここでは便宜上「集団が行なう戦闘行為」全般を戦争と呼ぶこととする。

「戦争はよくないことである」という認識は、現代では一般的な常識として人々に認識されていることは間違いないだろう。しかし、それでも戦争が起きるのはなぜなのだろうか？　作中で魔王が語ったように、戦争とは争いが大規模な形になったもの。「人類の歴史は戦争の歴史」というように、これまでの歴史を振り返ると、戦争は日常的とも言えるほど世界中のどこかで頻繁に起きているものであり、実はどこにも戦争がなかった期間は、人類史上でもごくわずかしかないのである。

原始時代から古代にかけての戦争の主な原因は食料確保の問題だった。人間の数が増えると食料の消費も同時に増えるが、技術が未発達な時代では新たに耕作地を開墾するのは容易ではない。動物を糧とする場合も、競合相手が少ないほどよいため、狩場をめぐる争いはいつも起こる。

しかし、土地を得て食料供給が安定すると、それを基盤にまた人が増えていく。空いている土地があるうちはいいが、ほかに住むに適した土地がなければ他の集団の土地を奪うしかない。また、集団を率いるリーダーは皆を守る必要があるので、競合相手を取り込む自衛的な意味で戦争を起こすこともあった。

時代が下って領主や国王が誕生するころには、食料供給も安定しはじめた。しかし、今度は権力者同志による富や権力の奪いや、商工業の発展から生じた市場確保の意味合いなど、人間の欲によって戦争が起きるようになる。このほかにも、西欧とイスラム圏が何度も衝突したように異なる宗教同士の争いなどもあり、戦争が起きる要因はより多岐に渡るようになっていった　特に近代の戦争は経済的な要因が強い。人々に分配できるパイには限りがあるが、戦争で物が壊れれば新たな需要が生まれ、人が減ればひとり当たりの利益も増す。すなわち、人の欲望に際限がない以上、それをめぐる争いが尽きないのも必定なのだ。

作中では、経済発展や人口増加の要因のほか、戦死者による人口調整の側面も語られている。

キュッ
キュッ
……
マスター
ん？

勝ったり負けたり…
そういうことじゃ
ないものって
なんですか？
どこで
手に入れるん
でしょうか…？
んあ？
なにを
言ってるのか
わからんが…

俺はずっと
酒場のマスターに
なりたくてな
遠征軍に参加して
手に入れた報酬で
ここを開いたんだ
だから ここが
俺の城だな
そうですか…
ここも
そうなんですね

よし こうだっ
この荷物め!!
ドン
ギュ
おとなしく
荷造りされろっ!!
開いているっ
今は手が
離せんっ
トン
トン
おおおおお

夜分に
すまない
取り込み中
だったか
まおゆう
魔王勇者
第八話
あ
すまない
学士様だったのか
てっきり
修道士かと

旅支度か
忙しい時に
来てしまったな
なぁに 女らしく
いろんな服や
装飾品がある
わけでもない
その気になれば
すぐに終わるさ
冬の雪国だから
星が明い
だけだ…

第八話 Archenemy and Hero 8th chapter

第二次極光島奪還上陸作戦を開始する!

私のことなら
心配はいらない
船が沈んだら泳いで帰ってみせる！
そこらの魔族に
やられるような
鍛え方はしていないよ
その…
この一年間
私のマガママに
付き合わせて…

馬鈴薯のことか？
四輪作かな？
そのことなら
感謝するのは
むしろ こちらの方だ
それとも
子弟たちの
訓練と
軍事教練か？
あれは
ストレス解消に
なっていい

それにいい
運動になる
適度な燃焼を
させないと
駄肉になって
しまうからなぁ
ううっ…
…言い返して
こないのか？
やけに
しおらしいな

私は…
その——
幼い時から
部屋の中だけで
育ってな
狭い家では
なかったのだが
ずっと…
ひとりだった

同性の親しい人は
メイド長くらいで…
だから
その
女騎士殿は
私にとって
言ってみれば

「友達」に
一番近い存在だと
いうように
私の推測では
先日 そう結論
したのだ

その女騎士殿が
将軍として
戦場に出向く

この戦は なにも
私と無関係な
わけではない

というより むしろ
私の意志が
バタフライ効果的に
影響を及ぼした
結果であろうことは
想像に難くないのだ…

つまり 女騎士殿が
戦地に赴く
その責任は
私にあると言える

しかし それなのに
私は…まだ
躊躇っていることが
あるのだ…

――例えば硝石と
黒色火薬を利用した
発射装置だ

密かに治金師への
依頼も行ってあり
まもなく実用に至る

それを使えば
戦には勝てるかも
しれない

でも それがまた
大きな影響を世界に
及ぼしてしまう
のではないか

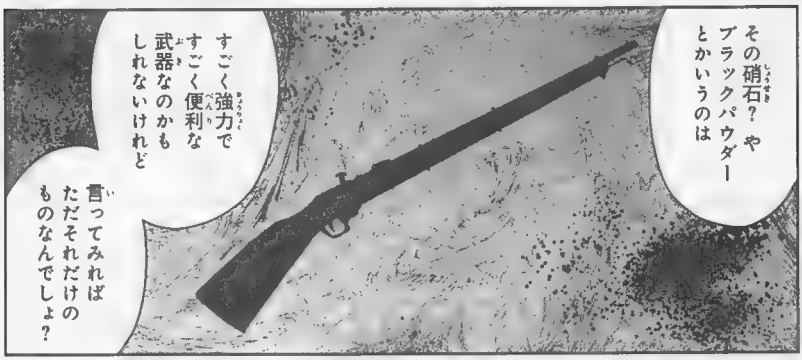
そう思うと…
笑ってくれていい
手が震えそうになる

どんなことでもする
そう強くなる と
誓ったはずだった

……でも なぜだか
わからないが
私はどんどんと
弱くなっていく

そうして 女騎士殿に
黒色火薬を渡すことが
できないでいる――

これから
戦場へ赴く
……友に
酷い裏切り
だと思う
…まぁ
要するに


その硝石？や
ブラックパウダー
とかいうのは
すごく強力で
すごく便利な
武器なのかも
しれないけれど
言ってみれば
ただそれだけの
ものなんでしょ？

そうだ
それなら
大丈夫！
私はそんな物が
なくても
負けないから
それだけじゃない
……私は
女騎士殿に
嘘をついているんだ

ずっと みんなにも
嘘をついている
だから
今夜はここへ
来たんだ
女騎士殿
私は――
魔王なんだ

私が光の精霊に仕えていることは知ってるよね？
もちろん知っている
では私 女騎士が聖なる光の精霊の信徒のひとりとして
湖畔修道会の修道院長として魔王 貴女の告悔を受け入れましょう
え？
貴女は友に嘘をついた
それを友と精霊に告白した
そのことで貴女の罪は洗い清められた
何の問題もありはしない
…魔王なのに？

懺悔の内容は嘘をついたことでしょう？
魔王であることに罪の意識があるの？
ぶんぶん
じゃこの件はそれで終了
何の問題もない
俺 ちょっとさ また魔界へ行ってこなきゃならねんだわ
ごめんちょっとけいこよろしくな
あーそうそう あと実はあいつ魔王でさ～
あざーす
きてッ
両手剣はやめて!!
あれは魔王だけど…その…悪いやつじゃないんだ
だからよろしく頼むよ
何の問題も…ないんだ

女騎士殿…

友人だというのなら
「殿」なんて付けるのは
やめにしてほしいな

確かに
勇者は
貴女と
契約をした

貴女と
勇者の間には
特別な絆が
あるかもしれない

それは
まぁ…
悔しいけれど
認めるしかたない

でもね

ぎゅ…

絆はひとつじゃない
私は勇者に
信頼されたんだ

それは
私の宝だ

私だって
勇者を裏切らない

だから心配なんてしないで
こんな戦で私が毛筋ほどでも傷つくことなんてありえないから

まだまだ負けるつもりも
降りるつもりもないんだからね！

第二次極光島攻略作戦
臨時作戦本部
ガチャ
カッ
カッ
カッ

！
おお
お久しぶりでございます
爺さんか
変わらないな
ほっほっほ

女騎士殿も
お胸のサイズが
変わらないようで
よし
斬る
もう いらこたと？
ハイ
そちらの
応接間に…
すまない
お待たせし…

その妖怪じみた
動きをやめろ！
によっほっほっほ

葦の国から
取り寄せた
新葉でございます
コポポポ…
……なんだ
その変わり身
何のことで
ございますかな？
爺は昔から
こうだったのか？
最初から
最後まで
こうでした
我が国の者が
迷惑をおかけして
申し訳ない
しつけを
してください
若っ!?
挨拶が
遅れたな
冬の国の
冬寂王だ
湖の国の
女騎士です
お招きに預かり
参上いたしました

お上げください
一国の王では
ありませんか

呼集に快く
応じてくださり
感謝の言葉もない

爺
あれを
はっ

そのせいで
爺などは連絡を
渋る始末で
コホン

いえ 我ら一同
貴方がたには
返しきれないほどの
借りがある

これは…
この近辺の
地図ですか
かなり
正確ですね
私が
直々に指図して
作りましたからな
どおりで
加護皇が…
な!?

さっそくで
悪いが…
いえ
その方が
助かります
目標はここ…
南氷海に浮かぶ
極光島

貴女がたが
世界にもたらした
光を守り…
南部諸王国の誇りを
取り戻すために
力を貸してほしい
旅立った友の
帰る場所と
大きな目的をもつ
友の道を守るために
私の力で
為せることを
いたしましょう

そうら
うち特製の
ベーコンだべ
おおドキ
こんなに
いいんだか？
にるべー
やくべー
ああ
構わねぇだよ
実はこんなに
ベーコン作っても
豚は去年の3倍も
いるだぁよ
そりゃ
すごいだなぁ
やっぱり
カブの
おかげだか
あはは
キャー
今年は本当に
賑やかな
年越し祭に
なっただなぁ
本当だなや
こんなに豊かな
冬ははじめてかも
しれねぇだ

学士様が来てもう一年にもなるかなぁ
また雪おろし手伝いに行くべー
学士様には本当にお世話になっとるだなぁ
あとはあそこの娘っ子さんたちが来てくれれば祭に華が――…
めんこいだべなぁ
びくっ
コラーあんた！
まだ祭が始まっていないのにもう呑んでるだか？
こっちの準備を手伝うだよ！
あはは
バッ
あはは
お前らも来るだよ
えー
ハハハ…
キャハハ

書類整理終わりました
ガチャ…
こちらに一覧をまとめましたので確認をお願いします
はいお疲れさまです
お料理の準備もできました～♪
バァ～ン
当主のおねーちゃん試食してみて！
うむこれはいけるな
年越し祭でみんな喜んでくれるかな～
じゅる…
みんなの料理も楽しみだよ～
そんなに楽しみなのですか？
そっかおねーちゃんたちは引っ越してきたから知らないんだね
そんなに賑やかな祭なのか？
賑やかというのとは違いますが…

この地方の冬は厳しくてほぼ四か月はろくに屋外に出られません
長い冬の間は家畜の世話くらいしかすることがないんですよ
あとは雪に覆われた家の中で火を守りながらじっと春を待つ…
そんな長い冬の間の最大の楽しみが年越し祭なんです
ご馳走を作ったりプレゼントを交換したり…
この時だけは農奴にも分け隔てなく振舞われます

年越し祭は長い冬を過ごすこの国の人の一番楽しみにしている日なんですよ
そうかそんなに大事な日だったか…
これはうっかりしていましたね
お姉ちゃん
うん
？

え？

ジャーン
二人に年越し祭のプレゼントでーす♪

ぶらぶら勇者様人形です！
あはは
似てる
似てる

私からはスズランの香水です
秋口から集めて作りました
スゥ…
ああ
嬉しいぞ
ありがとう

眼鏡のおねーちゃんにはこれでーす！
ふたりで作りました！
えっ？私にも…？
スズランの刺繍が…
私とおそろいだな
やっぱり縫い目が不揃いですか？
とんでもない！でも……
私たちはプレゼントなぞ用意していないのだすまんな
祭のことなどすっかり失念していた…

そんなの
いいよー♪
ええ
お気遣いなく

しかし…

こんなに優しくて
温かいお屋敷で
働かせて
いただいてるんです
毎日プレゼントを
いただいている
ような気持ちです
わたしたち
すっごく
幸せだよ～♪

……お前たち

ですから
この贈り物は
私たちからの
せめてもの
気持ちなんです
ありがとう
ございます
そして
おめでとう
ございます！

おめでとう？
新年だよ！
新しく
はじまるんだよ

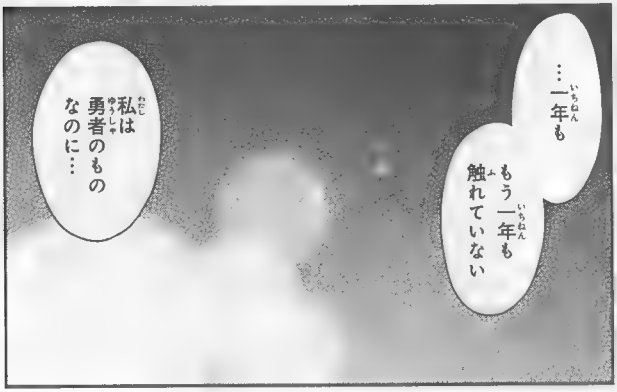
おめでとう
二人とも
今年もよろしくな
はい！
今年もいい年で
ありますように

ゆっくりと
楽しんできてくれ

おみやげ たくさん
持って帰るね♪
行ってきます

本当に
私まで祭に行って
よろしいのですか？
うん
私は
休ませて
もらうよ
皆によろしく
伝えてくれ

パチッ…
パチ…


私は
勇者のもの
なのに…
…一年も
もう一年も
触れていない

…勇者

勇者
私は弱虫になってしまったよ
世界を変えることが恐ろしい
戦争とはこんなに恐ろしいものだったんだな
あんなに躊躇いなく流せていた血なのに…
今は流れる血が恐ろしい
情報海ではその鉄臭さもぬめりも温度も感じなかったモノが
私の全身を濡らしているような気がする
…罪の重さをもって

それでも 私は…頑張っているぞ？
勇者

…褒めてほしいぞ

おう
偉いぞ
魔王

勇者へ～!!?
あぁ…
おっす
こっ このうつけ者！
どこをほっつき歩いていたんだ!?
ボコ
いたっ
痛
やめ…
スカ
この程度では飽き足らん！
ゴゴゴ
ごめんッ
悪かったって
でもこっちはこっちで大変だったんだよ！
ワーワー
そんなことを言って本当はモテモテでウハウハしてたんじゃないのか!?
ZZZ…
そんなことはないっ
魔王こそぶにぶに度が増してるくせにっ
ギャー
ぶにぶにだと!?
よくも言ったな……！
ギャワー
キー

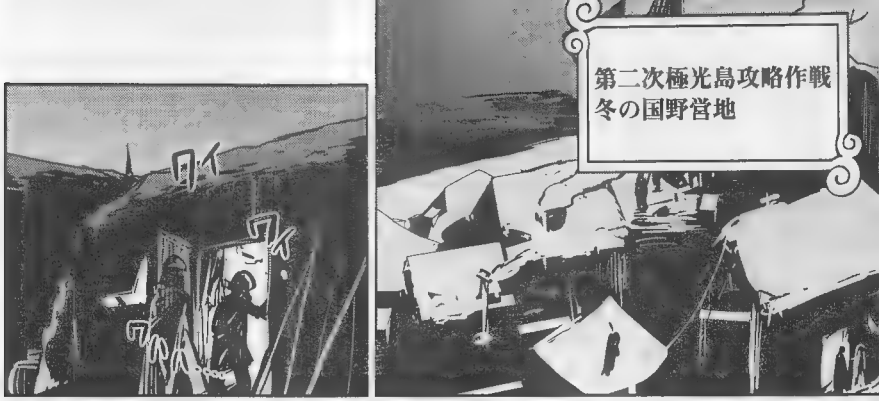
——やめよう
うむ
…この曲は？
年越し祭の音楽だな
メイドたちも行っている
へー
…祭行くか？
いいここにいる
よし それじゃ
ちょっと中庭に出てみないか？
？

これでいいのか？
もうちょい胸を張って
…そうそう
寒くないか？
大丈夫だよ
…勇者が温かいから
これ
小さな頃から使っていた櫛だ！
無くしたかと思っていた…
魔王城へ立ち寄った時見つけてさ
もしかしたらと思って
うん…
ありがとう

安上がりで悪いけど
それが年越し祭の
プレゼントだ
プレゼント
ない
…私 用意
してないんだ
魔王は俺のもの
なんだよな？
もちろんだ
それを聞きに
帰ってきたんだよ
それで充分だ
…すぐに
発つのか？
うん
悪いな

魔王と話したから
糸口は見えたよ
ひと月もかけず
「開門都市」を
攻略する
こちらも
見えてきた
…勇者に
会えたからな
次に会うのは
戦場となる
だろうな
勇者…
心配
いらないよ
俺は魔王の
剣にして道だ

勇者は……
私の光だよ


第二次極光島攻略作戦
冬の国野営地
ロイ

それじゃ
義勇軍に入った
理由は…
ああ 槍武王の末裔
冬の国の若き英雄が
軍を挙げると聞いてな
しかも 軍を
率いるのは
若く美しい
あの女騎士様！
勇者と共に戦った
伝説の英雄のひとりだ！
血がさわぐぜ！

俺は…
最近 冬の国は
豊かになったと
聞いてな
家族と一緒に
この国に
来たんだ
農奴の税も
賦役や作物でなく
銀貨で納めてもいい
ということらしいんだ
それなら
義勇軍の給金で
払えるからな
うちも
同じだな
自分の畑って
アコガレだなー
みんな
それぞれだなぁ

確かに
最近
この国は
暮らし向きが
よくなって
きているようだ
ほー
おぉー
俺はずっと
この国に
住んでるが
今年の
年越し祭は
ひときわ
豪勢だったよ
おう
アレだ
馬鈴薯だろ
初めて食ったが
美味かったなー
わはは
あげたのが
良かったな

しかし
ここに来て
二週間だけど
訓練して
いるだけで
いいのかな？
そうだな
まぁ
訓練は厳しい
けれどな…
おそらく
船が到着するのを
待っているんだろう
ここにある船じゃ
半分も乗せられない
なるほどなー

いつに
なるんだかなぁ…
そろそろ
まぁ
お偉方には
お偉方の考えが
あるんだろうさ

アレは
どうなっている？
近いですだ
年越しをしてから
二週間ほどかと

長年この海で漁をしてきた経験ですだ
今年も必ず来るだよ

引き続き観測をよろしく頼む
動きがあったら知らせてくれ
承知したぞだよ

女騎士殿！補給物資の件だが…
！
これは冬寂王様
ちょうど今その話をしているところだったのですよ

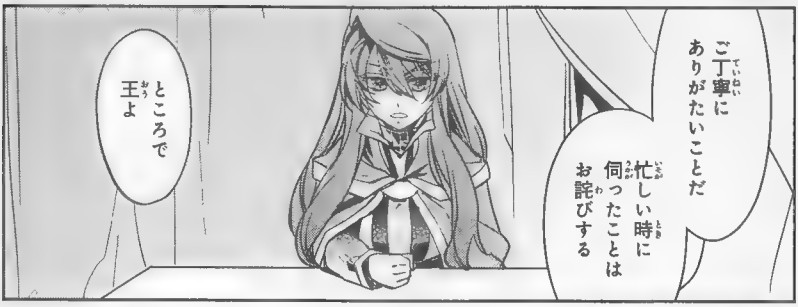
追加の防寒具二千着と備蓄用食糧一週間分…
ご依頼通り用意いたしました
…だそうだ
商人殿直接来てもらえるとは
ええ大口の取引ということもあるのですが…
もうひとつのご依頼についてのお詫びに――…

…やはり
アレは――
ええ
一大産地であった
極光島を魔族に
支配されて以来
流通量が以前に比べ
格段に減っています
できる限り
かき集めて
みましたが…
ご要望の量には
ほど遠く――
いや
仕方ない
最初から無理な
依頼であったことは
私が一番知っている
如何する
王よ
作戦に修正を
加えるか？
いや
しかし…
よろしい
でしょうか
お客様が
お見えです
紅の学士と
名乗って
おります
荷馬車隊と
一緒でして
学士殿が！

噂の天才的学者殿か!?
一度は会いたいと思っていたが…
!!
ともあれお通ししろ
学者だとは思わない方がいいぞ
ポン
私は紅の学士を名乗る者
お初にお目にかかる
王に差し入れを持参した

ご挨拶
痛み入る
私が冬の国の
冬寂王だ
もっとも
即位したての
若造だがな
いや
王の器量は
冬越し村にまで
響いている
お茶でも
いかがですか？
カチャ…
ありがたい
しょ…
商人殿…
なぜ ここに!?
ビク
本当に
偶然です
？

貴女は
我が国の農業を
大きく変えてくれた
方だと聞いている
ぜひ一度
お目にかからねばと
思ってはいたのだが…
無理難題な
仕事を次々と
積み上げられて
しまってな
挨拶もできぬ
ままだった
申し訳ない


ご丁寧に
ありがたいことだ
忙しい時に
伺ったことは
お詫びする
ところで
王よ

勝つつもり
なのだろうな？
無論だ
あの島を
取り戻すことは
南部諸王国には
必要なのだ

現在の南部諸王国は
中央大陸や聖教会に
言われるままに
戦をするだけの
まるで使い走りのような
存在でしかない

あの島を取り返せば
わずかとはいえ
交易路が安定して
収益を取り戻せるはずだ

金のために
将兵の命を懸けると
誇られようが…

いや
充分だ

中央の支配から
逃れるには…
国として経済的に
自立するしかない

王は理解して
おられるようですね

ところで
まお…学士は
何を持って
きたんだ？

もしかして
ブラック
パウダーか？

そんなものが
なくても私は…

いや
違う

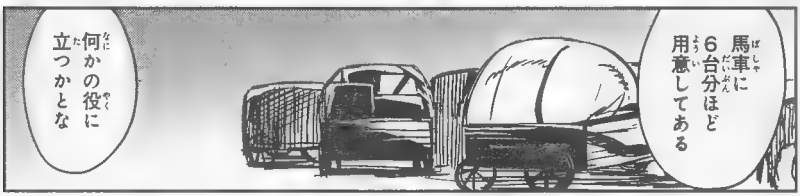
持って
きたのは…

塩だ

女騎士殿!?
商人殿!?
私からは
なにも

当然 私も顧客の情報を外部に
漏らしたりはいたしません
くく…

——ただ
そういう方なんですよ
この学士様は



馬車に
6台分ほど
用意してある

何かの役に
立つかとな

それだけの量を
よく用意
できましたね

私にも独自の
ルートがある

なんという
方なのだ…

この戦に何を望まれる？
その塩の代価は？
褒賞か？
それとも宮廷での地位？
地位は…そうだな
登城ができる程度の肩書きがあれば面倒がないな
それと……
時間を所望する
私は勝利を求めたことはない
だから勝利では足りない部分を司ろうと思う
そのためには時間が入り用だ
戦場において黄金よりも価値がある時間が
長くて一昼夜
ありえん！
奇襲が成立せんではないか！

それでも方策はある
女騎士殿ならばな
まぁ 学士殿が
言うんなら
あるんだろう
将軍！
南氷将軍！
こちらです！
早く…!!

何事なのだ!?
それが…とにかく御覧ください
?
なッ…!?
氷の橋…だと…!?

なんとか間に合ったようだな

はい

この時期南氷海に漂う流氷…

それを繋げて橋とする策…

塩

流氷同士を結合させるには塩が必要だった

それを見抜き塩を用意した学士殿…

底知れぬ方だ…

これより
第二次極光島奪還
上陸作戦を開始する！
重装歩兵団諸君！
中央を突破し
極光島湾岸部に
橋頭堡を築くのだ！
おおっ
中佐！ 上陸後 一隊を率い
湾岸部西方の岩山を
占拠せよ！
物見の監視地点と
防空拠点とする
拝命いたし
ました！
石弓部隊！
先行して空中および
水中を監視せよ！
はっ
大型魔族が
現われた場合は
射撃を加えつつ
撤退を繰り返し
後続を待て！

これは海戦ではない！
我ら人間が得意とする陸戦である！
個の力で戦う必要はない！
兵を回転させよ！
友軍を頼れ！
信頼が我らの力だ!!
今回は奇襲はお預けだ！
勝つべくして勝つ！
諸王国軍の力見せてやれ!!
出陣！
終 第八話
第二次極光島奪還上陸作戦を開始する！

第八回

戦争が起こる原因とは②

戦争が起きる原因のもっと根本的な理由と、戦争によって生じる技術発展の事実

相手とのあいだで生じた問題の解決を、力に求めた究極の形が戦争なのである。

戦争が起きないようにするには？

前回は戦争が起きる理由を人間社会の発展から考えてみた。近代以降においては、一般に民族や宗教の対立、イデオロギーの相違や資源獲得の目的などがよく戦争の理由として挙げられるが、実はこれらは表層的なものでしかない。もっと突き詰めて考えると、戦争というものは利害の不一致や意見の相違などから起こる対立を、暴力で解決しようとする姿勢から生まれるのだ。「まおゆう」では、魔王は2人の子供の出会いを例にこれを説明していたが、単純にいえば戦争はこれと同質のものだといえる。

従って戦争を防ぐ究極的な方法は、争いの根本的な原因となる利害の不一致や意見の対立が起きないようにすることである。しかし、これは現実的に考えると無理がある話だ。そうなると、やはり戦争にかわって問題を解決する手段を探すしかないのだろう。

戦争のための意欲的挑戦が新技術の開発に繋がる

戦争は、人類の技術発展と密接な関係があるといえる。もっとも原始的な武器は、狩猟で使う弓や槍などの身近な道具だった。やがて金属加工技術の発展で青銅器が誕生すると、武具としての刀剣が誕生。さらに、いち早く鉄器の製造技術を手に入れたヒッタイトが隆盛したように、鉄器の時代へと移り変わっていった。

このように、古い時代においては科学技術の発展が、そのまま集団の覇権に繋がっていた。近代のように国家が戦争に全力を注ぎ込む総力戦の時代になると、軍事技術に応用できそうな研究に対しては国家が予算や労力を負担するケースも出てきた。

例えば、貨物の輸送や旅行に欠かせない飛行機は、2つの大戦で大きな進歩を遂げた。現在は発電に使われる原子力も、そもそもは火薬の爆弾よりも強力な兵器を求めて開発していた、原子爆弾の研究過程から生まれたものである。

戦争には敵との技術開発競争という側面もあるため、軍事技術から生まれた利器も数多いのである。

現実では、中国で発明された黒色火薬が
西欧に伝わり大砲や銃が誕生、戦場の様子を大きく変えた。

ネット上の掲示板に書かれた「まおゆう」の書籍化プロジェクトを立ち上げたのは、去年五月のＧＷ明け。作者の橙乃ままれ氏に初めて会ったのがその一カ月後くらいだったと記憶している。

その場で確認したのは「十年たっても図書館の片隅にある本にしたい」という編集方針と「もしも十万部売れたら祝杯を挙げよう」という目標だ。その後、さまざまな紆余曲折を経て一巻発売にこぎつけたのが半年後、同年の年末。その直後に石田あきら氏の本作も連載をスタートしている。

それからちょうど一年。現状、小説本編が累計で三十五万部、連載中の漫画が本作を含めて五作、ドラマＣＤやラジオ放送も好評。

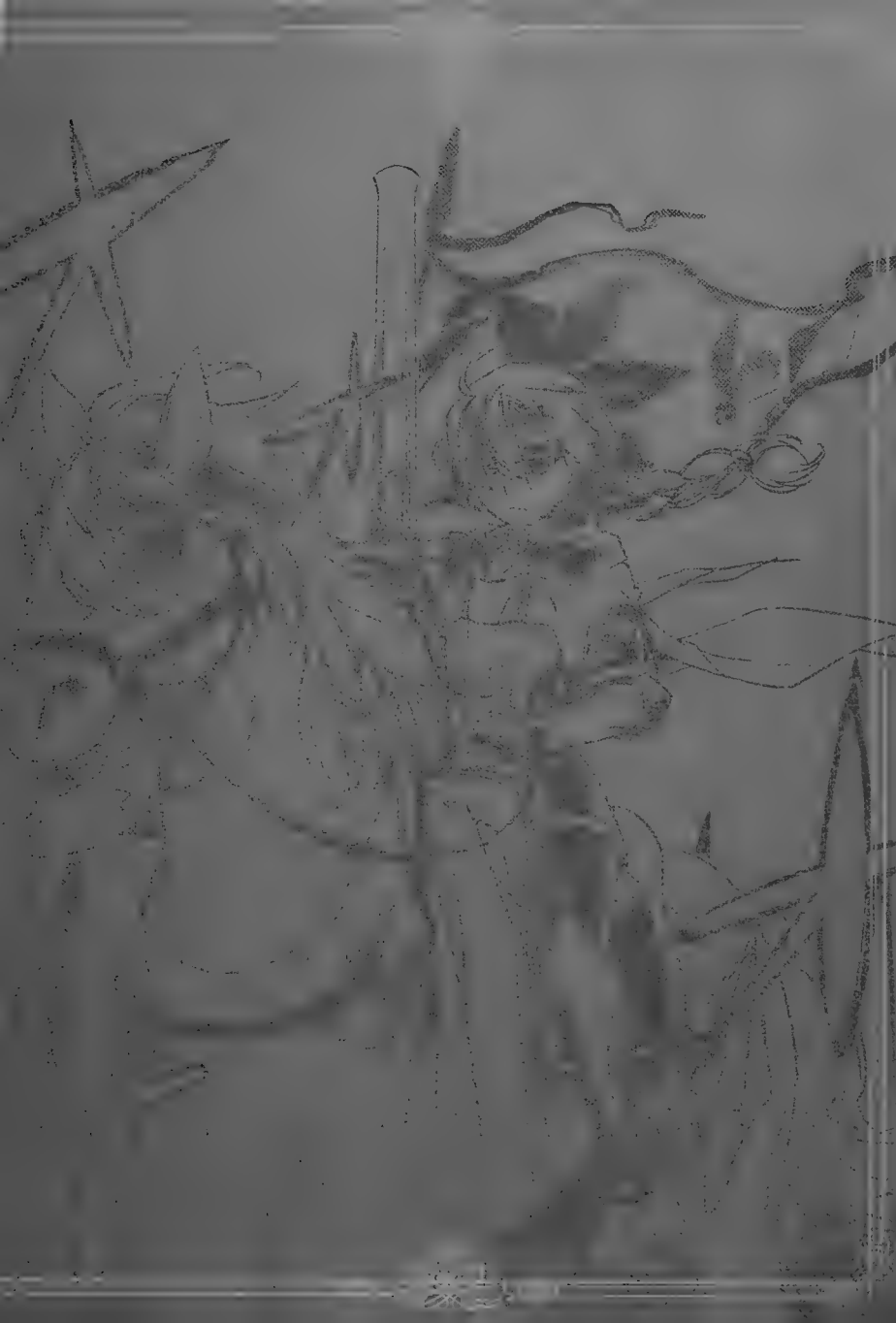
来年には朗読劇が開催され、さらなる展開もあれこれ準備中。正直いって当初の想定をはるかに超えてめまいがする思いだ。

このヒットを生んだ転換点のひとつが、漫画の先陣を切った本作であることは疑う余地がない。骨太で過不足のない構成は、スピードとわかりやすさを両立させ、まおゆうの世界を大きく拡げてくれた。心から感謝している。

今後もこのペースで頑張っていただきたい。くれぐれも健康にご注意を。

「まおゆう魔王勇者」総監修

桝田省治



ついに開かれた戦端！

女騎士率いる
冬の国軍を迎え討つは
豪傑・南氷将軍が統べる
極光島進駐軍。

さらに、勇者をめぐる
魔王と女騎士の戦いも本格化。
駄肉VS絶壁の軍配や、いかに!?

人が交わり世界が変わる。
さまざまな思惑が絡み合うなか
魔王と勇者は
「丘の向こう」を目指す――。

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

コミックス第3巻

'12年4月発売予定

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」②

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ　キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

2011年12月26日初版発行
2012年3月7日第3刷発行

発行者
新名　新

発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社　製本 本間製本株式会社

初出／『月刊コンプエース』'11年10月号～'12年1月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2011 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2011
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-120054-4 C0979

おおきく振りかぶって

Archenemy and Hero 魔王勇者

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

第二巻

漫画原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

Kadokawa Comics A

おしえて！メイド先生 その2
眼鏡のおねーちゃん
メイドとご主人様ってどっちが先に生まれたのー？
こらっ
変な質問をするんじゃありません
いい質問です
えっ!?
メイドとご主人様…
主従の関係であることからご主人様の方が先に生まれたように思われるでしょう
しかしご主人様はメイドなくしてご主人様たりえませんがメイドは単独でメイドとして存在できるのです
…つまり
ご主人様とメイドではメイドの方が先に生まれていたんだよ…！
!?
な…なんだってー!?